

令和元年度 歯学部附属歯科衛生専門学校
学校関係者評価 報告書

1 目的

歯学部附属歯科衛生専門学校（以下「本校という」）で実施した自己点検・評価結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について、学校外の関係者による評価を行い、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、専門学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ること等を目的として行う。

2 基本方針

① 実施方法

「専修学校における学校評価ガイドライン」（文部科学省：平成 25 年 3 月策定）を参照の上、歯学部附属歯科衛生専門学校関係者評価協議会（以下「協議会」という）を設置して複数名の学外評価者による本校の学校関係者評価を行う。

- (1) 評価者は、平成 30 年度に実施した自己点検・評価項目の中から、以下の「評価項目」に掲げる事項について評価する。
- (2) 平成 30 年度自己点検・評価項目以外に、重点目標（本校内の全教職員が意識して取り組むことができる具体的目標）を本校において設定し、学校関係者評価実施前に、自己点検・評価を行う（今年度の重点目標は「進路指導」における事項とする）。

<評価項目>

基準Ⅰ 教育課程・学習成果
① 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。
② 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
基準Ⅱ 学生の受け入れ
① 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。
② 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
基準Ⅲ 教員・教員組織
① ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。
② 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
○進路指導における重点目標

3 構成員

① 卒業生

歯学部附属歯科衛生専門学校同窓会会長 井上球代

② 学校の専門分野における関係団体・関係業界

(就職先企業、施設等の実習先、分野別の業界団体等)

特別学習実習先 成田歯科医院勤務 成田アヤ子

東京都立心身障害者口腔保健センター勤務 志田小百合

③ 歯学部附属歯科衛生専門学校教職員

校長 金子忠良

教務主任 清水康平

教務副主任 満足愛

専任教員 國井知余

専任教員 鈴石雅子

教務課主任 向井友美

4 協議会開催日

第1回 令和元年11月7日(木)

第2回 令和元年12月14日(土)

第3回 令和2年1月16日(木)

5 評価方法

① 専門学校校長が、「学校関係者評価票」(別紙)の各評価項目について、評価結果及び取組状況等を説明する。

② 学校関係者評価委員が、上記①を基に、次のとおり評価する。

(1) 各評価項目の「取組状況・評価に対する意見等」・「優れている点、継続してほしい点」・「問題点・要望等」・「その他意見等」を記述する。

(2) 取組評価については、次の4段階で評価する。

A：十分できている， B：おおむねできている， C：一部改善が必要， D：できていない

③ 学校関係者評価委員が、「学校関係者評価票」の評価結果を基に、総評として評価結果を報告する。

6 評価結果（総評）

自己点検・評価結果については、別紙学校関係者評価票のとおりであるが、以下の各基準における改善方策等を挙げる。

「基準Ⅰ 教育課程・学習成果」においては、まず、現行のカリキュラムの見直しを諮り、各教科についても今以上に専任教員が介入し、意見を云える環境に改善するとともに、学生評価が低い教科に対しては、教員に対して適切な指示が出来るように取り組んでいく必要がある。さらに、学生の授業へのモチベーションを上げられるような指導も検討したい。

「基準Ⅱ 学生の受け入れ」については、入学前教育プログラムを今年度より早速開始させた。この結果を多方面に有効に活用していきたい。また進学相談会や学校訪問等においても入学前プログラムに関する情報を提供するようにしていきたい。

「基準Ⅲ 教員・教員組織」については、現在行っている教員の教育研修会は今後も継続し、学部FDへも参加するとともに、その他外部機関で開催している教育に関する研修会等の情報も積極的に取り入れていきたい。

最後に「進路指導における重点目標」では、まだ知識が少ない学生がいきなり歯科医院へ訪問してしまうと、訪問先に迷惑をかけることになる点と、学生が歯科的知識と歯科に対する意識がもう少し芽生えてから、歯科医院訪問の意義を理解した上で、効率的な見学実習をしてきて欲しいという願いもあるため、現行の講義（歯科衛生士概論など）の中で、卒業生の方より様々な衛生士の活躍の実態について話を聞ける機会を低学年にできるように検討したい。

以 上